

『春雷とノイズ』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『春雷とノイズ』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『春雷とノイズ』を読んだことのある20代～50代の男女18名
調査期間	2026年7月18日～2026年7月19日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス・ランサーズ
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/syunnaitonoizu/

■アンケート項目

- Q1: 年代と性別を教えてください。
- Q2: 『春雷とノイズ』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代男性	1人
20代女性	1人
30代男性	1人
30代女性	1人
40代男性	3人
40代女性	3人
50代男性	7人
50代女性	1人

Q2: 『春雷とノイズ』の感想を教えてください。

1話	鈴がなぜ人と関わりを持とうとしないのか、その理由に納得できました。翠晴の妹だと知られる前と後とでは、周囲の反応が全然違います。そりゃあ人間関係にも疲れるだろうなって共感しました。一方
----	---

	で、奏の存在が気になります。奏は鈴のことを気にかけていましたが、それは翠晴の妹だからではありません。鈴自身の人柄や人間性に惹かれているように感じました。一人の人間として鈴を見てくれる存在だからこそ、今後二人の関係がどのように深まっていくのか注目したいです。
1話	鈴はこれまで、相当苦労してきたのでしょうか。今回も翠晴の妹だと知らただけで、このようなトラブルに巻き込まれてしまいました。これだけ理不尽な目に遭っていれば、翠晴の妹であることを隠したくなる気持ちもよく理解できます。また、絡んできた女子生徒のことが気にかかります。今回は奏が駆けつけてくれたおかげで大事には至りませんでした。しかし、毎回都合よく助けてもらえるとは限りません。だからこそ、このまま終わらせるのではなく、翠晴がきちんと話をつけて、二度と鈴に嫌がらせをしないようにしてくれればいいのですが。鈴がこれ以上理不尽なことで傷つかず、安心して学校生活を送れるようになることを願いたいです。
2話	奏は想像以上に素敵な男性でした。鈴と一緒に帰ろうとしても逃げられ、食事中には嫌悪感を示されるなど、決して好意的な対応をされていたわけではありません。普通なら、そこまで距離を置かれれば関わるのをやめてしまう人も多いでしょう。しかし奏は、そんな態度を取られても嫌な顔一つ見せませんでした。それどころか、自分が鈴を守っていたことを恩着せがましく語ることもなく、見守り続けていたのです。こうした振る舞いは、なかなかできるものではありません。相手を思いやる優しさと器の大きさが感じられ、奏は本当に素敵な男性だと思いました。
2話	鈴と奏の関係は難しいですね。普通に考えれば、鈴が奏に好意を抱いてもおかしくはありません。窮地を救ってくれただけでなく、その後も何かと気にかけてくれました。それでいて、自分の行動を恩着せがましく語ることはありません。そんな奏に惹かれてしまうのは、ごく自然なことだと思います。とはいえ、奏と関われば関わるほど、鈴が望んでいた平穏な日常は遠ざかってしまうことは間違いありません。これまで目立たないようにしてきた鈴としては、避けようとしてしまうのもわかります。お互いに惹かれつつあるのに、距離は縮まらない。そんなもどかしさを二人から感じました。
3話	奏がとにかくカッコ良かったです。待ち伏せしてきた相手は大人数で、奏にとって圧倒的に不利な状況でした。それは本人も十分理解していたはずですが、それでも奏は逃げることなく、自分が相手を引き受け、その隙に鈴を逃がそうとしました。なかなかできる行動ではありませんし、顔立ちだけでなく心までイケメンなんだなと感心しました。一方で、気になるのは鈴の取った行動です。鈴は機転を利かせて逃げるチャンスを作り出しました。しかし、相手には男性もいるため、ただ逃げるだけではすぐに追いつかれてしまうでしょう。どのようにして追っ手を撒くつもりなのか、注目したいです。
3話	絡んできた女子生徒たちには、思わず苛立ちを覚えました。そもそも鈴に絡んできた理由自体、到底納得できるものではありません。それだけでも十分理不尽なのに、本来無関係な男性たちまで味方につけて言いがかりをつけてくるところにも嫌悪感を抱きました。そんなやり方をするようでは、翠晴に振られてしまったのも無理はないのでは、と感じてしまいます。とはいえ、鈴たちが窮地に追い込まれたことは間違いありません。奏は自らがおりとなりとなって鈴を逃がそうとしましたが、鈴は彼を置いて逃げることを選びませんでした。二人で逃げるという判断が、この状況で吉と出るのか凶と出るのか、とても気になります。
4話	鈴の行動が本当に素敵でした。もしあの場で鈴が恐怖に負けて逃げていたら、奏は取り返しのつかない事態になっていたかもしれません。それだけでなく、鈴はただ奏のもとへ駆けつけただけではなく、自ら危険を承知で相手に立ち向かいました。普通なら恐怖で足がすくんでしまうような状況ですし、なかなかできることはありません。鈴の勇気ある行動には、本当に感心させられました。一方で、この出来事が奏にどのような影響を与えたのかも気になります。奏としても、鈴がここまで自分のために行動してくれるとは思っていなかったはず。この一件で、鈴に対する気持ちが大きく変化した可能性も十分にあるでしょう。だからこそ、これから奏が鈴にどのようなアプローチを見せるのか、今後の展開に注目したいです。
4話	今回は本当に危ない場面でした。奏なりに考えがあつての行動だったのですが、結果的に少し甘い見通しだったように感じます。相手の攻撃を難なくかわしている様子を見る限り、身体能力では奏の方が明らかに上だったでしょう。しかし、どれだけ個人の能力が高くても、多勢に無勢では限界がありますから。現実的に考えると、交番へ駆け込み、逃げながら110番するといった対応の方が安全だったように思います。

5話	なんだかんだで、秦のファインプレーだったと思います。確かに鈴の言うように危険な賭けではありませんでした。しかし、これだけ大騒ぎになれば、相手も迂闊には手を出してこないはずで。結果的に鈴の身の安全を確保することができたわけですし、よく頑張ったと声をかけてあげたくまりました。一方で、気になったのは母親からのメッセージを受け取った秦の反応です。メッセージの内容に問題があったというのなら理解できますが、母親から連絡が来ただけで表情を曇らせたことに違和感を覚えました。あの反応を見る限り、秦と母親の間には何らかの確執があることは間違いないでしょう。二人がどのような関係なのか、注目したいです。
5話	花屋の店主の存在が気になりました。もちろん、今回最も印象的だったのは、鈴が勇気を振り絞って秦を助けたことです。だからこそ、その直後に秦が鈴ではなく花屋の店主の方へ意識を向けていたことに、少し違和感を覚えました。これまでの描写を見る限り、秦と花屋の店主に面識や特別な繋がりがあるようには思えません。それにもかかわらず、秦があれほど店主を気にしていたということは、何か引っかかるものがあつたのでしょうか。花屋の店主が秦の過去と関係しているのか、それとも別の理由があるのか。今後の伏線にも思えるだけに、その真意が気になりました。
6話	スイーツを巡る一連のやり取りには、思わず笑ってしまいました。なんでしょうね、このおじいちゃん。ご高齢とは思えないほどの俊敏な動きでスイーツを持ち去る姿は最高でした。琴子が笑いをこらえきれなかったのも納得できます。また、琴子と鈴の相性の良さが伝わってきたのも印象的でした。どちらもスイーツガチ勢のようですし、話していて楽しくないわけがありません。もちろん、琴子の友人たちとの関係にはまだ不安が残ります。しかし、今回の出来事をきっかけに、鈴が少しずつクラスメートたちと打ち解けていけるのではないかと感じました。
6話	人間関係の難しさを感じるエピソードでした。琴子は鈴に対して偏見を持つことなく、共通の趣味を持っている話をしていて楽しいクラスメートとして接してくれているように感じます。しかし、琴子の友人たちはそうではありません。鈴に対して強い先入観を持っていることは明らかですし、どこか敵意すら抱いているように見えました。確かに、琴子と距離を縮められたことで鈴の人間関係は一步前進したのでしょうか。その一方でクラス全体に受け入れられるまでには、まだ時間がかかりそうですね。
7話	今回のエピソードで、鈴と秦の関係がかなり近づいたように感じました。ドラマチックな出来事があつたわけではありませんが、少しずつ外堀が埋まってきたような印象を受けたとでもいいましょうか。これまで秦と鈴の間には、翠晴を通じて接点があるというだけでした。しかし今回をきっかけに、友人同士も交えた交流が生まれ、鈴が自然と秦たちの友人グループに溶け込み始めたように感じます。二人きりで距離を縮めるのとはまた違い、周囲を交えた関係だからこそ、お互いをより深く知る機会も増えていくことになるでしょう。こうした積み重ねが二人の距離をさらに縮めていくのではないかと、今後の展開が楽しみになりました。
7話	琴子のコミュニケーション能力の高さには、思わず笑ってしまいました。はぎシューが気になるとはいえ、初対面の男子生徒にあそこまで遠慮なく話しかけられる人はそう多くないでしょう。物怖じしない琴子らしさが存分に発揮されていて、思わず爆笑してしまいました。今回の出来事を通して、鈴と琴子は翠晴たちのグループに溶け込めたように感じます。それ自体は二人にとって喜ばしいことですが、その一方で、快く思わない人が出てくるのではないのでしょうか。特に琴子の友人たちは、鈴が秦と親しくしていることに複雑な感情を抱いているように見えます。その嫉妬や反感が、今後どのような形で表面化するのか気になりました。
8話	鈴の反応が可愛すぎました。これまでも秦を前にしてドギマギする場面はありましたが、ここまで露骨に意識している様子が描かれたのは初めてではないでしょうか。秦を意識し、直視できないでいる姿が微笑ましくて良かったです。一方で、琴子が気になります。琴子の友人たちは、鈴が翠晴やその友人たちと親しくしていることに対し、嫉妬にも似た感情を抱いているように見えました。そう考えると、琴子が翠晴たちと一緒にいる姿を見て、何も思わないとは思えにくいでしょう。嫉妬や逆恨みから、琴子が何らかの嫌がらせを受けてしまうのではないかと、不安を覚えました。

8話	琴子のファインプレーだったと思います。エロいという言葉が、鈴に秦を強く意識させるきっかけになったように感じました。秦に触れられそうになっただけで慌てたり、顔を赤らめたりする鈴の反応はとても微笑ましく、恋心が少しずつ芽生えていることが伝わってきます。琴子の何気ない一言が、秦と鈴の関係を一步前進させたと言っても過言ではないでしょう。そして、最後の展開には驚かされました。琴子はともかく、目立つことを嫌う鈴が体育祭実行委員になりたいと考えるはずありません。一体どのような経緯で鈴が実行委員を引き受けることになったのか、注目したいです。
9話	琴子も、人間関係ではかなり苦労してきたのだと感じました。これまで琴子のグループはみんな仲が良かったのかと思っていましたが、実際はそうではなさそうです。表面上は一緒に行動していても、実際には琴子とその他というように、どこか線引きされているように見えました。この様子だと今回だけでなく、これまでも色々あったのではないのでしょうか。琴子には、もう少し自分を大切にしてくれる友人に囲まれてほしいですね。一方で、鈴のデートが気になりました。鈴はこれまで秦の制服姿しか見たことがなく、私服姿を見るのは今回が初めてになります。いつもと違う秦の姿に、鈴がどんな反応を見せるのか楽しみです。
9話	鈴と琴子の関係に注目したいです。琴子が鈴に向かって名コンビ誕生と言っていたのは、本当にその通りだと思いました。ネガティブに考えがちな鈴にとって、明るく前向きで行動力のある琴子は、とても相性の良い存在です。琴子の存在が、鈴の世界を少しずつ広げてくれるのではないのでしょうか。体育祭実行委員として一緒に活動することで、二人の絆がさらに深まり、かけがえのない友人になっていくことを期待したいです。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス